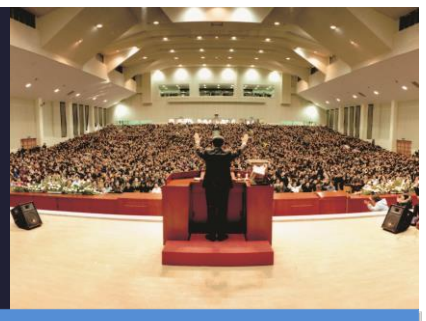
第 2019-10 号

恵みと真理のニュース



2019 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

わたしの力になる主よ。私が主を愛します。

私は高校生の頃、兄と共に教会に通いながら神様を信じる信仰生活をはじめました。しかし、イエス様を信じない人と結婚して子供を生んで育てながら主の居所を離れて住みました。そうする間、多くの人が家に尋ねて私を伝道しました。彼らの中にはえせ宗教に属した人が多く含まれていました。恵と真理教会に通い始めた後、初めて彼らの得体を知って分別するようになりました。神様が私を愛して恵と真理で充満してしてくださったからです。上の子が８歳になった時、アンヤン市に引越して隣に家に住んでいる区域長の伝道で我がの教会を通い始めました。
はじめは当会長の牧師の説教の御言葉を聴いたから御言葉に感動され熱い涙を流しました。礼拝を愛するようになり礼拝を終えて家に戻ってくるたびに受けた恵みと感動で涙を流したりしました。全ての礼拝に参席してわたしの心に深いところに御言葉が深く根を下ろすようになり始めました。
神様は御言葉に従順するように話して聖なる区域長の職分をくださいました。しかし、奉仕して仕えながら熱心に主の道を従うのはやさしくなかったです。旦那が通う会社が難しくなり、私達の家庭の経済事情も大変になりました。また周囲から様々な迫害がありました。心が弱くなった状態でも私も稼がなければならない状況でした。時間が立つほど礼拝の中心の生活をするのが難しかったです。しかし、そうすればするほど礼拝を愛して充実に礼拝を捧げるようにしました。様々な大変な状況で牧師の説教の御言葉だけが私に大きい力になり慰めになったからです。またわたしのため祈ってくださる方々がいらっしゃって信仰を失はなく勇気を出すことが出来ました。
指揮者によって。主の僕の詩。ダビデの詩。主がダビデをすべての敵の手、また、サウルの手から救い出されたとき、彼はこの歌の言葉を主に述べた。 主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。（詩篇１８：１，２）
そうするある日、 突然、上の子が日本に留学に行くとしました。一方的な通報を聞いて私は驚きました。しかし、この事は私がもっと神様を信じ委ねる気かけになりました。経済的な状況が良くなかったので教会と教区の全ての祈り会に休まずに参席して神様の助けと導きを願いながら祈りました。苦難の中でも決断して神様に感謝現金を捧げながら祈りました。１年間、そんなに熱心に祈ったら神様が環境の扉を開いてくださいました。上の子が奨学金をもらって経済的な苦難もなく勉強するように摂理してくださいました。それだけでなく、子供の道を開いてくださいました。受けた才能を発揮する仕事をするようにしてくださって、職場でも高めてくださいました。
“ハレルヤ。聖所で神を賛美せよ。大空の砦で神を賛美せよ。 力強い御業のゆえに神を賛美せよ。大きな御力のゆえに神を賛美せよ。”（詩篇１５０）賛美は曲調があるわたしの祈りになり大変な人生に大きい慰めになりました。ちょうど、聖歌隊で奉仕する執事の勧められて聖歌隊で奉仕を始めました。聖歌隊で賛美を捧げることに神様の恵みと愛に感動され涙が溢れました。聖歌隊で練習して礼拝の時間に賛美しながら弱い私も強くなりました。
そんな私を神様はもっと聖霊で充満になるようにしてくださり、魂を救うことに全力を尽くすように導いてくださいました。知恵も足りないし、能力も足りない私を忠誠した主の働き者にしてくださいました。伝道した人が麦の聖徒になるように聖霊様が働いてくださいました。熱心に伝道するようにしてくださり、区域長のセミナで伝道大賞ももらうようにしてくださいました。神様に栄光を捧げます。
そのように熱心に伝道して主のことに力を尽くす中で新しい家で住みたい多きい夢を持つようになりました。大きい家で区域礼拝を捧げるたびにわたしの家も今より広い居間で多くの聖徒達を仕えて神様に礼拝を捧げる聖なる希望を持つようになりました。神様が望めないうちに頼むようにしました。そして、驚くほど不可能だった希望が神様の恵みで成し遂げられました。新しい家を買い入れ住んでいた家を売り渡すことが順次に成し遂げられました。その家庭で“良いもので満足させる神様の驚くな計画と摂理を体験しました。
“ どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。”（恵と真理賛美３５７章を歌いながら神様を賛美します。）
わたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴いようにして感謝します。魂の救いを受けて主を仰ぎながら真の幸せと平安と満足を享受するようにしてくださった神様の恵みと愛に感謝します。

［信仰コラム］　苦難と繁栄、疾病をこのように対処しなさい

”あなたがたの中に，苦しんでいる者があるか。その人は，祈るがよい...”（ヤコブの手紙 5:13，14）

苦難と繁栄と疾病この三つは誰でも一生を通じて経験する事なのでこのような事事をどのように対処するかを学ばなければなりません。誰でも繁栄は有益で苦難と疾病は害だと判断するでしょう。しかし、必ずそうでもありません。その状況をいかに受け入れて対処するかによって及ぶ影響と結果が大いに異なりかねます。本分の御言葉はその対処方法について私達にとても貴重な知恵と知識を提供しています。
第一、苦難を受けた人はお祈りしなさいと言われました。
イエスキリストを信じると神様の子になり全能な神様を父と呼ぶようになります。苦難を受けると子供が父親に助けを求めるように父でおられる神様にお祈りすべきです。苦難の中でお祈りすると神様の慰めが臨みます。克服できる力が注がれます。苦難の中でお祈りすると神様が全てのことが善になるようにしてくださいます。問題の解決のために奇跡を施してくださいます。苦難が光栄になり、有益になるように摂理してくださいます。
第二、喜ぶ人は賛美しなさいと言われました。
喜ぶ人とは事が順調に進行されている人、万事が良くなったり繁栄になる状態にいる人を意味します。しかし、このような時に気をつけなければなりません。万事がよくなると自慢に陥りやすいです。そうなると神様に頼らず、自分の知恵と力を誇り、頼ります。繁栄になるとこの世の事がいかにも忙しくておもしろいので信仰生活が弛みになりやすいです。来いと言う所が多く、行く所が多くなります。それによって礼拝をおろそかにして主の事に励みません。神様に仕えるよう与えてくださった健康と才能、名声と権勢、物質を肉親の事だけに使用します。心が喜んでいる人は賛美しないと言われましたが、ここには二つの意味があります。一、全ての光栄を神様に捧げなさいという意味です。二、信仰生活により励みなさいという意味です。賛美は礼拝において必須的な要素です。従って、礼拝に励むべきだという教訓です。そして神様に捧げて主の事に励むべきです。
第三、病んでいる者がいたら癒されるためにお祈りしなさいと言われました。
この世で生きる間、疾病の脅威から完全に解放された人は誰もいません。しかし、聖書を調べてみると驚くべきな事実を知るようになります。神様は私達が健康であるように願っており、また私達の疾病を癒してくださるという事実です。だけではなく、イエスキリストを信じる者には病を癒す恵みと使命を与えてくださったという事実です。イエス様は私達の全ての罪を贖うために十字架につけられて死なれました。その贖いの恵みの中には私達を疾病とそれによる苦痛から救うためのことも含まれています。教会と聖徒は神癒の福音を伝える使命を与えてくださった主の命令に従うべきです。主が福音を述べ伝えて病んだ者を癒すべきだと何度も言われたので論難の余地なく絶対に服従するのが当たり前です。
イエス様は彼に進んでくる病んだ者を全て癒されました。しかし、私達がお祈りすると病んだ者が例外なく全て癒されるのではありません。私達はその理由を全て知ることはできません。しかし癒しのために心を尽くしてお祈りした人はどんな結果であれ様々な種類の変化が起ります。聖書には健康維持と疾病の癒しのために神癒のお祈りと共に私達が実践して適用すべきことについて多方面に記録しておきました。節制する生活、清潔な生活に励むよう強調して教えています。心を治めるべきだと言いました。
苦難を受けると主によりお祈りしてください。万事が良くなった喜ぶ時には主により多く捧げてください。病んだら神様に病気を癒してくださるよう信仰で求めてください。病んだ者のために祈ってください。そうして皆さんが当面する苦難と繁栄と疾病が神様の善と権能と真実に対する体験を増大させる契機にさせ、神様とより深く豊かな交わりを持つようになる機会に扱ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

人本主義ロト、神本主義アブラハム

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

先週の日曜日に、カインとアベルを比較して神本主義と人本主義が何かを見てみました。今日はアブラハムとロトを比較して見てみましょう。神が人に与えられた最初の法律は、神の命令に従うの法でした。神の命令は、非常にシンプルで明瞭でした。禁断の木の実を食べてはならないということです。人類の祖先であるアダムは、神の命令に従わなかった。禁止された禁断の木の実を食べました。この不従順の罪とその結果の対したお話は、アダムの子孫代々に伝えられました。セットとエノスの子孫はしばらくの間は、その教訓を心に留めました。エノクは生涯をその教訓を心掛けて神様と同行しました。
長い間歳月が過ぎて、ノアの時代に至っては、その教訓を心に置く人がいませんでした。ただ、ノアは、これを深く留意しました。そして彼は神の命令どおり箱舟を予備して、その家族と一緒に洪水審判から救われました。大洪水審判で、ノアの家族以外は全滅しました。ノアの子孫が急速に繁栄しました。一方、主なる神への信仰は、喪失されてアブラハム時に至っては、偶像崇拝が蔓延しました
アブラハムは、偶像崇拝を排撃し、堕落したこの世の文化を嫌悪しながら、神を探していたところ唯一な創造主の神を知るようになりました。正確に言えば、神はアブラハムを選び、アブラハムに自ら自分を明らかに啓示しました。アブラハムが神の召しられて、その命令を追ってカルデヤのウルを離れ立つようとしたときの一族のコミュニティの族長であるテラは、アブラハムの決定に同意しました。しかし、途中でテラはハランに滞在するのを要求しました。テラが死んだ後、アブラハムはロトを連れてハランを離れ去ってカナンの地に行きました。ところが、カナンの地に入るとまっすぐ飢饉が迫ってきました。アブラハムは神に問わず、カナンを去ってエジプトに下って行きました。一面に考えると賢明な決定だが総体的に見れば、非常に軽率な仕打ちでした
エジプトに下って行ったアブラハムは自分の妻サラのためにもし人が自分を殺すかも知れないと思いました。その理由は、妻のサラは、優れた美貌を持っていたからです。アブラハムは妻のために与えられる被害を懸念でサラを説得して兄弟のように振る舞うことに合意しました。サラのうわさを聞いたエジプトの王がサラを王宮に呼びかけました。とにかく神がこの事に介入したので事実を知ったエジプトの王がアブラハムを呼んで叱ってサラをアブラハムに返し送りました。アブラハムは、エジプトを離れ去って、カナンに戻って来ました。過去彼が最初に祭壇を築いた場所に戻ってきました。そして礼拝をささげました。彼は最初の信仰を回復して、新たに献身しました。
いつのまにかアブラハムは富の者になりました。家畜と金銀が豊富でした。アブラハムの甥ロトも所有が多くなりました。その地が彼らの同居するには狭くて、羊飼いたちの間で紛争が生じました。アブラハムは大きい決断を下しました。

アブラハムはロトを連れてヨルダン平野を見下ろす場所に立って言いました。**「アブラム は ロト に 言った， 「わたしたちは 身内の 者です． わたしとあなたの 間にも，わたしの 牧者たちとあなたの 牧者たちの 間にも 争いがないようにしましょう． 全地はあなたの 前にあるではありませんか． どうかわたしと 別れてください． あなたが 左に 行けばわたしは 右に 行きます． あなたが 右に 行けば わたしは 左に 行きましょう 」（創世記 13：8,9）**
アブラハムはロトに居住地の選択に優先順位を与えました。ロトが目を上げてヨルダンを眺めてみるとゾアルまで、その全体が肥沃な土地でした。ロトは天幕をヨルダンに移つしました。アブラハムは、ヨルダン川の西岸地区の山地であるヘブロンに居所を定めました。ただ、環境的条件のみ見れば、ロトの選択と決定が賢明なことがあります。ヨルダン平地は牧畜にはもってこいでした。その南の端に商業と文化の街として栄えたソドムとゴモラ町がありました。一方、アブラハムが選んだのユダの高原地帯は寂しい荒野で草を探し回る羊飼いの疲れがあるところです。
ところが、留意すべき点は、彼らが選択と決定をすることになった動機と目的の違いです。アブラハムは神本主義で選択し、ロトは人本主義で選択しました。ヨルダンに幕を移したロトは、最終的にソドムの町に自分の天幕を移しました。ソドムとゴモラがどのように堕落した町であるかを知ってあれば行ってはならないところです。ロトは人本主義に行動したのです。人本主義とは、神様を度外視した人の中心で、自分中心的に考えて行動することです。その結果、ロトが得られたのが何ですか？彼は財産も大きく増えただけでなく、ソドムの町の裁判官までなりました。しかしソドム、ゴモラが北方の連合軍に侵略を受けたとき、捕虜になるところになりました。ソドムの町が硫黄の火の審判を受ける時に財産が火に燃えてしまったのです妻は塩の柱になって娘は完全に世俗化されてしまいました。
アブラハムの選択と決定は、ロトと比較して何が違うのですか？アブラハムは神本主義に行動しました。自分中心ではなく、神を中心にしました。信心生活に有利な方向に選択して、決定しました。 ヘブル人への手紙 11 章 9 節、10 節を見れば **「信仰によって， 他國にいるようにして 約束の 地に 宿り， 同じ 約束を 継ぎ イサク ， ヤコブ と 共に， 幕屋に 住んだ． 彼は， ゆるがぬ 土台の 上に 建てられた 都を， 待ち 望んでいたのである． その 都をもくろみ， また 建てたのは， 神である」**しました。アブラハムは高く、より遠く眺めてみました。
ロトがアブラハムから離れ去った後、神はアブラハムに言われた。
「ロト が アブラム に 別れた 後に， 主は アブラム に 言われた，目をあげてあなたの いる 所から 北， 南， 東， 西を 見わたし なさい． すべてあなたが 見わたす 地は， 永久にあなたとあなたの 子孫に 与えます． わたしはあなたの 子孫を 地のちりのように 多くします． もし 人が 地のちりを 數える ことができるなら， あなたの 子孫も 數えられることができましょう． あなたは 立って， その 地をたてよこに 行き 巡りなさい． わたしはそれをあなたに 与えます」（創世記 13：14~17）神からこのような約束を受けた後、アブラハムが天幕を移しヘブロンのマムレの樫の森の近くに行って住んでいたそこにも神に祭壇を築いた。礼拝をささげました。

アブラハムとロトを対照して見ることができる事件がまたあります。アブラハム当時エラムの王ケドルラオメルの指揮の下で、4 カ国連合軍がソドム、ゴモラ、アドマ、ツェボイム、ゾアルなどカナン地の死海沿岸の 5 同盟国を攻撃しました。この戦争の発端はこうします。12 年の間に、カナン地の王たちは、ケドルラオメル王を仕え朝貢を捧げてきて 13 年目になると反逆し朝貢を捧げませんでした。すると 14 年目に至ってケドルラオメルは、これを懲罰するために 4 カ国連合軍を編成して攻撃しました。
ソドムに住んでいたロトはこの戦争で富をすべて奪われ、自分は捕虜となった。これを知ったアブラハムは、自宅で育てた 318 人の訓練された装丁を率いて遠くダンまで追撃しました。アブラハムは、兵力を分け、夜間奇襲を敢行してケドルラオメル連合軍を撃破しました。アブラハムは、すべての富を取り戻し捕虜になっていた人々を救出しました。もちろん、ロトとその家族も救出しました。避難していたソドムの王が出てきて、アブラハムを受け入れて言った、「人は私に送って物品は、あなたが取ってください。」としました。しかし、アブラハムはこれを拒絶しました。
ここでロトとアブラハムの違いを見ることができます。ロトはこの事件を通じて大きく悟ったところべきはずなのに再びソドムの町に入って行きました。ロトは神様を信じている人でありながら、何事にも自分中心であったし、この世に欲を脱いで捨てませんでした。ところが、アブラハムは、自分が所有しているとしても、誤りがない戦利品であっても持って行かなかった。人々が言うのを「ソドムの王がアブラハムを豊かにした」とのうわさを聞きたくなかったからです。「アブラハムは神の恵みと福を受けて豊かされた人々である。」という言葉を聞きたいでした。彼は万に一つも神の栄光を覆うかして正当な権利まで放棄したものです。アブラハムは、自分中心ではなく、神の中心に行動しました。

私たちの生活にとって重要なのは何を、どのくらい所有したかではなく、生活の動機と目的は何かということです。人本主義の生活と神本主義の生活の結果の違いは何か？この世で何を、どのくらい所有したかということで、その違いを判断すれば、わずかな差でさえ見つけることは困難になります。しかし、この世で旅人の道が終わる日何が違うのか完全にかつ確実に明らかになるでしょう。それは地獄と天国の違いです。または恥ずかしい救いと栄光の救いの違いです。あなたはすべての選択と決定において、神中心に、神の本位の動機と目的にしてください。信仰生活、敬虔な生活に有利な方に選択して、決定してください。そしてこの地での一日一日が永遠の価値と栄光に重宝されるようにしてをください。